

## デュシェンヌ型筋ジストロフィー 説明の補足

### その後現れて来る病気の症状

- \* その後、幼稚園年長、小学校 1 - 3 年頃に、  
転びやすい、  
立った位置から座るとい動作をゆっくりすることが難しくなる。  
仰向けに寝た姿勢からの立ち上がりが大変になる、  
階段の昇り降りにてすりを必要としたり、時間がかかる  
などの症状がでてきます。
  
- a . 立った位置から座るとい動作をゆっくりすることが難しくなる。  
気をつけないと、立った位置から座る時にドスンと座り込むようになり、足や腰を打つことがあります。
  
- b . 転びやすさ
  - \* 転び方も、最初はずきやすく、すねやひざをけがすることがみられます。ハイソックスやタイツなどで傷から守って上げましょう。
  - \* モモの筋力が落ちてくると、疲れた時には、膝を伸ばした状態を歩行中に長く保てなくなり、モモの力がスッと抜けるために、あたかも突然正座するように両膝から落ちて転ぶようになります。
  - \* 自分の力での立ち上がりができなくなり、立った位置から座った位置への変換がゆっくりにはできなくなってくると、尻餅をつくような形で転ぶことが多くなります。
  
- c . 関節が伸びにくくならないように気をつけましょう。
  - \* お子さんの運動機能を守るために、アキレス腱(足首)が短くなっていない事、股関節(足の付け根の部分)が固くなくて伸びる事、膝が伸びることと左右差がないことが重要です。

(この用紙は先生のご判断で、適切と思われる時期に患者さんの家族へお渡し下さい)